

利晶の杜

利晶の杜は、堺が生んだ最も有名な 2 人の人物にささげた資料館である。茶の湯の大成者、千利休と、歌人でありフェミニストの先駆者、与謝野晶子だ。資料館内の展示ではインタラクティブビデオディスプレイや多言語のタブレット案内も利用できる。

千利休（1522 年 –1591 年）

千利休は日本史においてもっとも影響力のある茶道の指導者である。彼は素朴な茶器を好み、中国から輸入された華やかな茶器（唐物）をもてはやしていた当時の「茶の湯」の様式を簡素化しようとした。資料館の 1 階には、利休の茶室と唐物の茶器を使った茶室のそれぞれのレプリカがあり、対照比較できる。展示を見た後には、実際に茶の湯体験ができる。ホストが茶の湯の各手順を教えながら、淹れたての抹茶と季節の和菓子を出してくれる。

与謝野晶子（1878 年 –1942 年）

話題の歌人であった与謝野晶子は、生涯で 30,000 以上の詩歌を作り、さらにフェミニズムや社会問題について多くの評論を書いた。2 階の展示は彼女の詩からはじまり、月替わりで晶子の自筆の詩が展示される。展示されている昔の著作本の表紙の多くは、1900 年代初期からの日本の著名な作家が手掛けていた。作家になる前は、晶子は家族の商売を手伝っていた。堺で人気のあった和菓子屋で、記念館内にはその和菓子屋を詳細に再現した模型が展示されている。